

令和5年度 第1回豊中市生活支援サービス部会 議事録

令和5年(2023年)9月19日(火)

午後4時～午後5時10分

第二庁舎5階 第1会議室 及び WEB

《出席状況》 豊中市生活支援サービス部会員5名中5名出席

豊中市生活支援サービス部会

◎大野委員、秦委員、今井委員、小林委員、樋口委員

(◎=部会長 委員名簿順)

事務局

福祉部：坂口次長兼長寿安心課長

長寿安心課：中田副主幹、島田係長、松下係長

長寿社会政策課：山岸課長、森本課長補佐、高木係長、望月主査、溝田主事、中根

豊中市社会福祉協議会：勝部事務局長、佐藤課長、吉田課長

《傍聴者》2名

□議題

- (1) 生活支援コーディネーター活動報告について
- (2) 第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における生活支援体制整備事業実施計画について
- (3) その他

□議事内容

事務局

定刻になりましたので、令和5年度第1回豊中市生活支援サービス部会を開催いたします。

本日の出席状況を報告いたします。

部会員5名のうち5名が出席されています。

したがいまして、要綱で定める部会員数の過半数を超えておりますので、本日の会議は成立しております。

【WEBの説明、資料確認】

部会長

皆様、こんにちは。お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

令和5年度の第1回の生活支援サービス部会を開催させていただきます。

まず初めに事務局より、令和5年度の生活支援コーディネーターの活動報告をお願いします。

議案(1)

事務局

■生活支援コーディネーター活動報告について

【資料1】「令和5年度(2023年度)生活支援コーディネーター活動計画」

【資料2】「生活支援コーディネーター実施内容(R5.4~8)」

【資料3】「生活支援コーディネーター中期支援計画(生活支援体制整備事業実施計画/R3年度~R5年度)報告」の説明

部会長

ありがとうございます。それでは、資料1、2、3を通しまして皆様のほうからご質問やご意見をお願いできますでしょうか。

資料3のカラーで示していただいています参加者数の推移などを見ましたら、本当にコロナ禍、令和2年度に入って一旦活動に参加される方の人数が減りましたけれども、いろんな工夫をしていただいた中で令和4年度は令和元年を超えたというところで、本当にコロナ禍を物ともせずと言い過ぎだと言われるかもしれませんが、でも結果としてはそういうところが見えたことがすごいなと思って見させていただきました。

資料2の地域課題のところ、特にスーパーやコンビニが相次いで閉店しているということもご報告いただきましたし、どの地域においてもバスなどの公共交通機関の便数が減ったりしている状況だと思うんですが、一方でその中で移動販売や移送サービスをいろいろとしていただいていたわけですが、実利用者の増加につながらないというようなご指摘をいただきました。

このあたりの事情について、もう一度よろしければご説明いただけますでしょうか。

事務局

移送サービスにつきましては、福祉施設と連携をしながらそちらのデイサービスの間の時間帯を活用させていただくような取組みで、事前に登録者を募ってマッチングしていくとか、あるいは巡回バスのような形で止まっていくようなのを15分単位で、0分、15分、30分、45分とずっと町の中を巡回していくことを皆さんと一緒に話し合っ

てつくってきたんですが、じゃあいざそれに乗ってくださるかというところでもないということで、労力と、それから協力、かなりの社会貢献をお願いしているんですけどもその部分があまりうまくいかない。

どちらかというタクシーGOみたいに行きたいときにすぐに連絡したらぱっと来てもらうみたいな使い方だとうまくいくのかなと思ったりもするんですが、それも使い方を知っている人たちはそれでどんどん進みますけれども、そうじゃない人はなかなかうまくいかないということで、どういうやり方がいいのかというのを、移送に関しては結構どこの町も苦戦している感じなので、なかなか難しいなというのが1つです。

それから、スーパーとかコンビニが相次いで閉鎖しているということで、これは北丘校区で書かれているんですが、豊中の豊島西といって服部の西側ですね、尼崎に近いほうの地区にスーパーが全くなくて曾根まで出てこないとなるところがありまして、その地域の人たちは非常に買物にお困りになっていらっしゃるんですが、本当に困っている方が多いからということで、コンビニや生協さんの移動販売を入れたりするんですが、これがまた金額が高いと買わないということもあったり、背に腹は代えられないでしょうと思うんですが、本当に体が弱っている方はヘルパーさんに頼まれたりとか週末に安いスーパーなどに行って大量に買ってくるというようなことをされたりということで、ちょっとしたものが欲しいときはまさにそうなんでしょうけれども、常設でないと、そこに行けばいつでも買えるという場所でないとなかなか難しかったり、それから移動販売の中身も生鮮に関してはすごく需要が高いんです。コンビニはどこでもあるという感じなんですが、生鮮に関しては需要が高いので、移動販売でも「豊中めぐり」の野菜を持っていくと売れるとか、それから「びーのマルシェ」というお店も八百屋さんを入れているのでそこはすごくたくさんの方が買われるということもあるので、何をかうかという問題もいろいろ出てくるかなというところがあります。

こういった取組みは施設と連携して施設の駐車場などでやらせていただくと、入居者の方々はそこでもお買物をしたいという欲求が高いのでそういうマッチングをしているところは比較的成功的かなと思っていますが、北丘に関しては本当に買物ができなくなっていますので、何らかの供給体制を取っていかなければと切に感じているところでは。

部会長

ありがとうございます。

困っておられるのは確かなんだけど、いつでも思い立ったときにすぐに利用できるという便利さも求められるし、また買物に関してはこれだけ物価も上がっている昨今ですから皆さん財布のひもも固くなって安い方がいいわということなんですね。なかなか難しいところかと思えます。

ほかの方で何かご質問とかございませんでしょうか。

そうしましたら、報告に関しましては今ご説明していただいた内容で皆さんにご理解いただけたということになります。

それでは議題2に進めさせていただきます。

議題2は生活支援体制整備事業の実施計画、令和6年から8年度の取組みの方向性と展開ということになりますが、これについて事務局よりご説明をお願いします。

議案(2)

■第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における生活支援体制整備事業実施計画について

事務局

【資料4】「生活支援体制整備事業実施計画（R6年度～R8年度）取り組みの方向性と展開」の説明

部会長

ありがとうございました。

今のご説明につきまして、皆様のほうからご質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。

特にここからの3年間の計画になるものですので、どうぞ何かご不明な点とかここはどうなっているのというようなことがあればご意見をいただけると計画づくりとしてはありがたいのですが、いかがでしょうか。

事務局

すみません、よろしいでしょうか。この間、「おれんじカフェ」の参加者の方が徘徊をされたんです。我々豊中市全体で「徘徊SOSメール」というシステムを持っておりまして、そういったことがあると瞬時にみんなで連絡し合うということになっているんですが、9時5時に徘徊されるとは限らなくて、夕方のたそがれどきに徘徊される方も出てこられるということで、たまたまその日もお休みの日だったんです。お休みの日にいなくなったということで、メールも流してもらいにいくしどうしたらいいかということだったんですが、たまたま「おれんじカフェ」のチームごとにLINEのグループをつくってまして、それだとどなたがどういう背景でどういう徘徊の傾向があるか、ふだんからみんなで共有しているんです。

そういう小さな仲間ができてくると、そのメンバーでサポートができたりして、非常に効果があるんですが、随分豊中市内にもこういう「おれんじカフェ」が増えてきていますので、地域包括支援センターの職員さんや生活支援コーディネーターさんや「介護者家族の会」のメンバー、それから当事者の方々の連絡ツールで使っているものなんです。それが徘徊の互いを支えるチームづくりにもなったりということで、とても心強くて、ご家族もどうしていいか分からなかったんですが、お近くの方が多いので、10分、15分間にみんなが集まってきて助けることができたんです。そういうことを提唱していくと、徘徊されている方のご家族はとてもお困りだと思うのですがよく救われるかな、そういう小さなつながりづくりみたいなことも今からしっかり形にしていくのが大事な、と思いました。

部会長

ありがとうございます。

全くゼロから新たな資源をつくるということではなくて、それ自体は前からあったものなんですけど、これまでの活用の仕方とか目的と少し違うやり方でも役に立つという、そういうふうなことを考えていいですか。

そうすると、既存の資源が二重三重にいろんな機能を果たすことができ、より多様なネットワークとなる、そういう視点を今いただけたかなと思います。本当によかったです。

部会員

ご報告、ありがとうございました。ミクロの実践の中から現状と課題を常に分析されておられて、しっかりと今部会長が言われたみたいに改善されているというようなところは本当にすばらしいなと思いますし、一つ一つのネーミングがすごくセンスがあっていいなという感じでございます。

そんな中で、9期に向けての意見というところ、計画に向けてというところで、1つはこれは決して揚げ足を取るようなつもりはないんですが、もともと社会福祉協議会さんでいろんな活動、地域活動だったり事業をされておられて、本当に多様な全国に先駆けて先駆的な事業をされておられて、それとこの生活支援体制の整備事業の区分けというか住み分けみたいなのところが遠いところから見ているとよく分からない部分もあるので、どんなふうにしてされているのか。

あるいは、もともと制度だけを見てされているわけではなくて、むしろこういった制度をつくってこられた側だと思うので逆に区分けしにくい部分もあるんでしょうけれども、生活支援体制整備事業と社会福祉協議会さんが行っておられる事業や地域活動や当事者活動と多分に重なっておられるんだと思いますが、どんなところで線引きされているのかということが1点と、それから本当にミクロな実践の中で地域のつながりとかニーズを大切に活動されているということはすごく分かりますし本当に尊敬するんですが、もう一方でデータといいたましようかプロ的な視点というところを見た現状、課題分析みたいなのところ、先ほど参加者数が増えているというようなことはしっかりと反映されていますが、また逆にこういうデータから見てこういった課題があるんじゃないかな、そのためにこういう大きな視点での仕掛けだったり、仕掛けには行かなくてもその課題みたいなのところを、もし把握しておられたら教えていただければと思います。

事務局

今回のこの生活支援体制整備事業で出てきております移送サービスの問題や、各種プロジェクトの問題、「買物支援」や「福祉便利屋事業」、「ぐんぐん元気塾」というのは今回の生活支援体制整備でできたものです。

ですので、従来由市社協の事業としてやっていたものとは全く違って、これは高齢者の介護予防と生活支援ということを中心に推進してきているものです。3層目で実施していますのは校区福祉委員会というところを基盤に進めていますし、2層目でやっているものは既存の地域の団体であったり当事者団体などを絡めて主体をつくって運営しているというものになりますので、コラボレーションを図りながら主体をつくってっております。

そこには福祉施設の方も借りておりますし、地元のいろいろな社会資源を活用してということで実施させていただいておりますので、そもそもやっていた活動というのは社協の地域福祉でやっていた活動というところと校区福祉委員会がやっていると言ったらそもそも同じじゃないかと思えますが、その当時でやっていたのは「ふれあいサロン」を月1回とかお弁当の宅食を月1回とか、それから「子育てサロン」をやるとか「何でも相談」をやるということでしたので、「ぐんぐん元気塾」や「福祉便利屋事業」などはそれ以降に発生していますので、今かなりの高齢者の方々がこちらに参加されるようになって週1回以上の取組みになっていますので、介護予防としては大きな柱になったかなと思っているところです。

それから、便利屋事業については、ご指摘のとおり誰が一番助かっているのか、もちろん当事者が一番助かっていますが、環境部も随分助かっておりまして、大型ごみを外に出せない高齢者が全国的に本当に増えているわけです。

大手の家具のメーカーなども、持っていくことはするけれども取りに行くことはしてくれないということがあるので、無料回収も企業の責任の中でやっていただくとか、電球交換とかもつけっ放しであとのメンテナンスは自分でやれとなったときに、高齢で自分でできない人たちがこれから増えますので、実際にそれを住民を通して支え合っていくということもしかりなんです。かなり大きなマッサージチェアとかあいうのも通販でばんばん売っているわけですけども、ごみとして出せない人たちもたくさん出てきている中で、製造者や供給者の責任というのも一方で問うていかないと、運ぶだけでも多くの手が要するというのも、現状として思っているところでもあります。

こうやってボランティアの人たちの力を借りてやっていかないと、ここに悪徳業者が、ごみを出しましょうかと入ってきて、金のネックレスはありませんかと、宝石はありませんかと、おうちに入っているいろんなことを聞かれて大変な目に遭う。そうすると今度はその相談が「何でも相談」にまた入ってきて、というようなことが起きているということで、地域ではいろんな人たちがこうやって支えて、地域の目をつくっていくことはすごく大事ななところなんです。この3年は数字を確認するというよりも何とか継続することで精いっぱいでしたので、やっと正常な形になりつつあり、敬老の集いも再開をすることができたという段階ですので、これから委員がおっしゃっているような、数字的にもどうなのかということのインパクトもぜひお伝えできるようにまた工夫をしてみたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

部会員

ありがとうございました。

先ほど大型ごみの廃棄のニーズというのは、これから本当に新しいボランティアの形が想像されるような感じだと思って聞かせていただきました。

これは本論と関係ないんですが、片仮名の部分をあえて平仮名で表現されているところもあるようなんですが、何か意味があったりするのかなと思ったりしております。

事務局

ネーミングはいろいろとこだわってつくったりしています。アグリカルチャーですからアグリは片仮名でもいいんですけども、何だろうと考えるみたいな、これこそ住民主体でみんなで話し合っつくってあります。

部会員

「おれんじカフェ」も「おれんじ」だけ平仮名になっておられましたか。

事務局

これはやっているところによっていろいろ使い方が違ってたりするんです。

部会員

ありがとうございました。

部会長

ほかの皆様からご質問等はないですか。

私のほうから質問といいますか感想なんです。人材の育成・組織化については資料4のほうでは支えられていた人が支え手という視点に立ち、と書いていただいています。先ほど紙媒体だと手を挙げる人が結構いるんだというご報告もいただきましたが、今私がお尋ねしたいことは少しそこから外れてしまうんですが、全国的にもこういう支え手を若い世代に持っていく難しさというのは非常に言われているところだと思うんですが、そういった年代的に多様にしていくということに関して、今お考えになられていることや現状感じられている難しさとか、そのあたりを少し教えていただければと思います。いかがでしょうか。

事務局

地域共生の発想とこの生活支援体制整備事業の問題でいいますと、生活支援体制整備事業は高齢者施策の範囲なんですけど、我々はそれよりもう一段進めていきたいということで、地域共生をベースに考えていくと、例えば先ほどの「福祉便利屋事業」も高齢者の登録をしているんですが、ひきこもりの若者たちにもたくさん登録をしてもらっています。大型ごみは高齢者では運べないものが多いので、就労の体験をしているような若者たちに手伝ってもらおう。手伝ってくれということを入り口にして社会参加を促していくようなケースをたくさんつくってきています。

それから、今回の敬老の集いも「敬老の集い」というユーチューブチャンネルをつくらせていただいているんですが、今回初めてこの出演者に不登校の子供たちがメタバースにアバターで出てきます。「敬老おめでとう！」と出てくるのは5人ほどの不登校の子たちなんですけど、それをサポート、協力してくれているのは地域の高齢者の方々や美術の先生なんです。高齢者を高齢者だけで進めていくと、どんどん先細りになってしまうので、例えば「おれんじカフェ」も「おれんじカフェ」だけでやるのか、子ども食堂とセットでやっていくのかみたいな発想でやっていくと、役割がどんどん生まれてくるということで、地域共生体制整備事業もプラスアルファ地域共生の視点で進めていかないと、活動が高齢者だけの取組みでいくと楽しみも少ないです。「豊中めぐり」なども自分たちで野菜を作って配るだけよりは、そこに野菜収穫体験で子供たちが参加したり不登校の子たちが来ると、高齢者の方々も社会的意義や役割を感じられるということがあります。今後、共生的な視点で支えられている人を支える側にといいところを体制整備の事業を通じて、今社会の中で活躍できていないような人たちの参加のきっかけをつくるのが重要じゃないかなということ強く思っています。

部会長

ありがとうございます。そうですね、本当にお聞きしたとおりだと思います。

もう一つは、支え手を多様にしていくということと同時に地域の中の一人一人の方の抱えている問題もすごく多様になっていて、例えば高齢者の問題に見えているけれども同居のご家族の中にヤングケアラーがいるとか、そのほかのいろいろな課題が含まれているような場合があって、この生活支援サービスもそういったことに気づく一つの入り口になる可能性があると思うんですが、そういった意味ではこれらの事業に参加をしている人たちがそういう問題に気づいたりすることがあると思うんです。

そういう気づきを拾い上げて、時には主体を越えて解決につなげていくということについてはどのようなお考えをお持ちなのかということをお教えいただけますでしょうか。

事務局

便利屋の事業なども、基本は高齢者の方々を支えるという話でスタートしているんですが、心の病の方であったり、ごみ屋敷状態になっているご家庭であったり、最近では別に高齢者でなくても単身の40代、50代の方でも大型のごみを外へ出すことが1人ではできないという方はもちろんたくさんおられます。

高齢者だから大変なのかということでこの生活支援体制整備を進めてきましたが、孤立しているから大変なんだという問題もテーマとしてとても大きいのかなというところもありまして、サポートした人たちがごみ屋敷状態になっているご家庭を見ることで、

どうしてああいう生活になっているかといったら誰も助ける人が周りにいないということに初めて気がつくとか、そういうことも多々ありますので、簡単なちょっとしたお手伝いなんですけど、そのちょっとしたお手伝いをしてもらえ人が周りにいない社会になっていることへの気づきということがとても大切なのかなと思って活動しています。

なかなか交流会などが今までできませんでしたので、今年度後半はサポーターの交流会など、そういう気づきを交流して地域づくりをより進めていけるようにというのは大きなテーマかなと考えているところです。

部会長

ありがとうございます。

高齢者の日々の生活の問題の支え手ではあるけれども、本当に地域の人々っていろいろなものを抱えていらっしゃるの、自らが相談窓口につながりにくい人たちを見つけたりできるような存在であると、より頼もしい地域の資源になるのかなと感じております。

意見というほどでもなく感想でございました。

ほかの皆様から何か追加でございませんでしょうか。

では、この内容で、いただきましたご質問なども踏まえまして、適宜必要な部分については調整をさせていただいて、方向性については皆様のご了承をいただいたということによいでしょうか。

今後、もし何か詳細について出てきましたら、事務局と部会長の私にご一任いただくということによろしいでしょうか。

この内容については今後、介護保険事業運営委員会の第9期計画策定の中で一体的にご審議いただくということになります。

議案3

■その他

事務局
部会長

【説明】

以上で本日の生活支援サービス部会を終了いたします。皆様、ありがとうございました。